

平成 26 年度第 3 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 26 年度第 3 回文系チャレンジ講座が、平成 26 年 9 月 17 日、「恋愛問題から見る経済学」をテーマとして、本学経済学部准教授の相浦洋志先生によって行われました。

遠隔配信された大分雄城台^{おぎのだい}・大分鶴崎^{あじむ}・安心院・日田・大分商業・高田・国東・大分西・三重総合・臼杵の 10 校(306 名)と、来学した森高校(17 名)を合わせて、計 323 名の高校生が受講しました。

相浦先生は、授業に先立って、「経済学はお金に関する学問と思われがちです。狭い意味では確かにその通りですが、「ヒトとヒトとのつながりやヒトと社会とのつながり」を科学的に分析説明する学問でもあるのです。この講義では恋愛という男性と女性とのつながりを経済学の視点から説明することで、経済学の基本的な考え方を紹介していきましょう。」と、受講生に投げかけました。

まず、企業と私たちはカネ・モノ・サービスでつながっており、この社会関係について分析する学問が経済学や経営学であること、経営学は企業の視点で分析するのに対し、経済学は全体の視点で分析することを説明しました。

この後、経済学を恋愛問題に置き換え、経済学の基礎知識を説明してくださいました。「ゲール＝シャプレーアルゴリズム」(カリフォルニア大学のロイド・シャプレー名誉教授と共同研究者の故デビッド・ゲール氏による)という手法を通して理想のパートナーをどのようにしてマッチングさせることができるかを受講生に紹介しました。シャプレー、ゲール両氏によって考案されたマッチングに関する分析では、誰が一番ふさわしい相手とパートナーになれるかという理論が生み出されたのです。先生は、ていねいにマッチングさせる方法を実際にスライドで実演し、受講生はスライド画面に注目しました。この「ゲール＝シャプレーアルゴリズム」を応用・活用できる場面は、ヒトとヒト、ヒトと組織など、異なるグループの構成員同士をマッチングさせるなど恋愛問題だけでなく、私たちの日常生活や社会の中にもあるはずであると、先生は問いかけました。経済学の考え方は、思わぬ所に存在していることに気づかされました。

最後に「ゲール＝シャプレーアルゴリズム」の練習問題について、受講生から解答がほしいと画面を通じて要望が出され、後日、全受講生に正解を配布しました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(96%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(98%)、「授業内容はわかりやすかった」(91%)、「板書(スライド)は適切だった」(88%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(96%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(83%)、「映像はよく見えた」(84%)という結果がでました。受講生の具体的な声として、「受講生と映像を通じてやり取りがあり、クイズ形式で楽しく受講することができた。」「他校生のようすを見ることができ新鮮な気持ちで受講できた。」「意外なところで経済学が活用されていること驚いた。」「もっと講義を聴きたかった。」「経済学を学びたい。」など、多くの感想が寄せられました。

